2026_1028「シラカシのドングリ、大豊作！」日々の理科 4462 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

職場の構内にある「日時計広場」には、何本ものシラカシの木が植えられています。シラカシはブナ科コナラ属の常緑広葉樹で、関東地方でもごく普通に見られる樹木です。名前の「白樫」は、材の色が比較的白いことに由来するといわれています。今年は、このシラカシのドングリが大豊作！どの木も枝が垂れ下がるほど、びっしりと実をつけています。写真を見ると、一つの枝に何個ものドングリが鈴なりになっている様子がわかります。

シラカシのドングリは、長さ 1.5～2cm ほどの細長い卵形で、春に開花した雌花がその年の秋に成熟します。特に特徴的なのは、いわゆる「帽子」に当たる殻斗（かくと）です。同心円状の横縞模様が幾重にも重なり、まるで丁寧に編み上げた帽子のようです。形も色も整っていて、実に「ドングリらしいドングリ」といえるでしょう。緑色から褐色へと変化していく様子も、秋の深まりを感じさせます。

ドングリは、リスやネズミ、カケス、イノシシなど、さまざまな野生動物にとって大切な秋の食料です。動物が運んで隠したドングリの一部は、食べられずに残って発芽することもあります。つまり、動物たちはドングリを食べるだけでなく、シラカシの子孫を広げる役割も担っているのです。

残念ながら、職場の構内にイノシシやリスはいません。しかし、このドングリを心待ちにしている小さな生き物たちがいます。子ども園の子どもたちです。これからの季節、シラカシの木の下は、ドングリ拾いに夢中になる子どもたちの歓声で、毎日のように賑わうことでしょう。

（2026 年 10 月下旬／お茶の水女子大学構内）

